

8月
開催

磐城センバツ代替大会出場決まる

「2020年甲子園高校野球交流試合」(仮称)

センバツ出場予定32校が1試合限定で

磐城ナイン夢の舞台に喜び噛み締める



幻となった春のセンバツの代替大会が決まり、聖地に立つ夢をかなえ、笑顔をみせる磐城ナイン10日午後5時40分ごろ

日本高校野球連盟は10日、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった今春の「第92回選抜高校野球大会」(センバツ)の出場予定校32校を今年8月に甲子園へ招き、交流試合を開催すると発表した。大会名は「2020年甲子園高校野球交流試合」(仮称)で、日本高野連が主催し、朝日新聞社と毎日新聞社が後援。磐城高ナインたちは10日夕の練習中に朗報を聞き、夢の舞台で試合ができること笑顔で喜びを噛み締めた。

大会は8月10〜12日と15〜17日の合計6日間開催され、センバツに出場予定だった磐城を含む32校が1試合ずつ、合わせて16試合を「無観客」で行う方針。

感染拡大防止の観点から、無観客に加えて1日3試合以内に、組み合わせは各校の主将によるオンライン抽選会を7月18日に実施し、決める予定だ。また、高野連では今後、感染症専門医などの識者を交えた実行委員会を立ち上げて感染予防策などの詳細を協議してい

くという。

移動、宿泊について現状では、北海道、東北地区を除く関東以西の出場校は、感染防止のため公共交通機関を使わずに地元の出場バス1台で来場。北海道、東北地区の出場校は航空機またはJRで向かう場合、大阪到着時から主催者が準備する貸切バスを利用する。また宿泊は、前日と試合当日の最大2泊を原則とし、近隣校は1泊や日帰りを検討する。

朗報が届いたのは、10

日夕の練習の最中。吉田強栄校長が選手ら32人に大会の開催と出場を報告すると、選手たちは夢にまで見た甲子園に立っていることに、喜びを噛み締めた。岩間涼星主将(3年)は仲間を前に「春がなくなり色々なことが起きて本当に悔しく悲しい思いをいっぱいしたが、高野連、関係者の方々が動いてくれ(大会出場が決まったので)感謝の気持ち忘れずにやるからにはしっかりと、全力で甲子園で勝つためにやってきたので、そこを3年生中心に最後甲子園で高校野球を終わるので、やりきったと思えるようこれから一日一日を大切にやっていこう」と気合を込め、選手たちも前向き、大きな目標に向けて練習に打ち込んでいた。

【甲子園代替試合の決定に至る経緯】
磐城高は、いわきに甚大な被害をもたらした昨年10月の東日本台風を乗り越え、12年ぶりの出場となった東北大会で堂々のベスト8。準々決勝では仙台城南(宮城)に敗

て印象深い戦いを繰り広げ、さらに古里に戻ったのちも自主的に被災地のボランティア活動に奔走するなどした姿勢が高く評価され、今年1月に第92回選抜高校野球大会(センバツ)で3枠しかない21世紀枠での出場が決定した。
平成7年の夏以来、センバツは3度目、通算10度目の甲子園出場となり、悲願のセンバツ初勝利に向けて氣勢をあげたが、全国的に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症が行く手を阻んだ。無観客での開催検討の報からわずか1週間後、3月11日に史上初となる大会中止が決まり、夢破れた部員たちは悔し涙を飲んだ。

新型コロナウイルスの影響で部活が休止、夏の大会も5月20日に中止となり約2カ月。今春から指揮を執る渡辺純監督のもと、部員たちは今月8日から活動を再始動10日付いわき民報で詳細を掲載。県の代替大会に向けて気合を入れ直した矢先に、今回の朗報が舞い降りた。